

家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践

《担当者名》 百々 尚美 (ndodo@hoku-iryo-u.ac.jp) 生田 倫子 (非常勤講師)

【概要】

集団・地域社会における心理支援等に関する理論と実践を学ぶ。従来の個人の内面に焦点を当てた臨床心理学的な視点に加え、環境との適合や社会システムへの介入を重視するコミュニティ心理学の視点を獲得することを目的とする。

【学修目標】

集団・地域社会における心理支援に関する理論 (集団力動、予防モデル、コンサルテーション等) を理解する。
危機介入、多職種連携、アウトリーチなど、地域臨床の実践に必要な具体的スキルを学ぶ。
家族関係に関する理論と実践を学ぶ。
事例検討やグループワークを通じ、個人の問題を多層的なシステムの視点からアセスメントする能力を養う。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	家族療法/ブリーフセラピーの認識論的なりたち	ベイトソンによってシステム論が心理療法に導入されるに至った歴史的経緯について学ぶ。	生田 倫子
2	家族療法/ブリーフセラピーの認識論的なりたち	家族療法の基礎理論：システム論とコミュニケーション理論学について学ぶ。	生田 倫子
3	家族療法/ブリーフセラピーの認識論的なりたち	MRIアプローチとソリューションフォーカストアプローチ (SFA) について学ぶ。	生田 倫子
4	コミュニケーションの語用論	「送り手が送る意味」と「受け手が受け取る意味」の語用論について学ぶ。	生田 倫子
5	コミュニケーションの語用論	原因を追究しないという認識論 円環的認識論とは何かについて学ぶ。	生田 倫子
6	集団に対する心理支援とグループ・ダイナミクス	集団力動の基礎理論 レヴィンの場の理論、グループ・ダイナミクス (凝集性、規範、圧力、同調)、集団の発達過程 (タックマンモデル)、スケープゴート現象など、「個」を超えて「場」の力を理解する。	百々 尚美
7	集団に対する心理支援とグループ・ダイナミクス	グループアプローチの実践 構成的グループ (SST、心理教育) と非構成的グループの違い、リーダーシップ理論 (PM理論)、ファシリテーションスキルについて学ぶ。演習 (コンセンサス実習) を通じて集団のプロセスを観察する視点を養う。	百々 尚美
8	コミュニティ心理学の理論と予防モデル	コミュニティ心理学の基礎 臨床心理学とのパラダイムの違い (「川の上流へ行く」視点)、Bronfenbrennerの生態学的システム理論 (マイクロ・メゾ・エクソ・マクロ)、セクス・オブ・コミュニティについて学ぶ。	百々 尚美
9	コミュニティ心理学の理論と予防モデル	予防と啓発のモデル カプランの3段階予防 (第1次・第2次・第3次予防)、IOMモデル (普遍的・選択的・指示的予防)、公衆衛生のアプローチについて学ぶ。環境要因のアセスメントと予防プランの立案演習を行う。	百々 尚美
10	コンサルテーションと多職種連携	コンサルテーションの理論 カプランのコンサルテーション・モデル (4類型)、カウンセリング (二者関係) とコンサルテーション (三者関係) の構造的な違い、被諮問者のエンパワメントについて学ぶ。	百々 尚美
11	コンサルテーションと多職種連携	多職種連携の実践 保健医療・福祉・教育・司法・産業の5分野における他職種の役割と連携、Bio-Psycho-Socialモデルに基づくチーム協働、守秘義務と情報共有の課題について	百々 尚美

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		学ぶ。SC場面での演習を行う。	
12	危機介入と自殺対策・災害支援	自殺予防と危機介入 危機理論（フィンク、カプラン）、自殺対策基本法、ゲートキーパーの機能について学ぶ。自殺リスク評価（TALKの原則）を用い、「死にたい」という訴えに対する具体的対応をシミュレーションする。	百々 尚美
13	危機介入と自殺対策・災害支援	災害心理支援 災害サイクル（茫然自失期～再建期）と被災者の心理、PFA（サイコロジカル・ファーストエイド）の3原則（見る・聞く・つなぐ）、支援者のバーンアウト対策について学ぶ。	百々 尚美
14	アウトリーチと社会的処方・エンパワメント	アウトリーチと社会的処方 「待つ臨床」から「出向く臨床」への転換、訪問支援の倫理的課題、ひきこもりや虐待への介入、社会的処方（医療と地域資源の接続）について学ぶ。	百々 尚美
15	アウトリーチと社会的処方・エンパワメント	エンパワメントとプログラム評価 エンパワメント（ラポート）、アドボカシー（権利擁護）、プログラム評価（PDCA、ロジックモデル）について学ぶ。困難事例（8050問題等）へのチームアプローチを検討する。	百々 尚美

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

百々、生田の2教員よりそれぞれ課題が出題される。（100%）

【教科書】

別途指示する。

【参考書】

別途指示する。

【備考】

- 学習教材（授業資料）の配信、学習課題の提示
 - 授業資料の配付はGoogle Classroomを利用して学習課題を提示する
- 授業に関する学生相互の意見交換やグループ学習の実践
 - 学生相互の意見交換を目的にGoogle Classroomを活用する
- 任意の時間での授業の受講
 - Google Classroomを利用したオンデマンド型授業、オンライン授業を行う場合もある
- 授業時間中にその場で学生の理解度を把握する技術の活用
 - Google Formを活用し、授業時間中にその場で学生の理解度を把握する
- 欠席回数について
 - 各自で責任を持って管理すること（欠席回数についての問い合わせには原則応じない）。
- 課題について
 - 課題の提出締切を厳守すること（遅延の場合は課題の評価は減じられる）
 - 課題内容において、剽窃などの不正がなされることは極めて低劣な行為であり、いかなる事情があろうとも忌避されるべきものである。そのような不正が発覚した場合、あるいは強く疑われる場合には、以降、その学生からの提出物は評価の対象から除外する。

【学修の準備】

- 予習について
 - シラバスの内容を参考に、参考書および講義資料を熟読し、講義内容を予習すること（80分）
- 復習について
 - 講義内容を見直し、不明な点は関連書籍をもとに確認し、理解を深めておくこと（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

DP 1 . 心に関わる社会的諸課題について臨床心理学や関連諸科学の学修を通じてそれらの解決方法に関するアプローチを立案し実行する能力を有している。

DP 2 . 公認心理師に求められる心理的アセスメントや心理支援に関する高度専門技能を修得している。

上記、心理科学研究科ディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

百々 尚美(公認心理師)、生田 倫子(公認心理師)

【実務経験を活かした教育内容】

公認心理師としての医療・福祉・教育での実務経験を活かし、臨床・研究の成果を反映させた講義内容となっている。